# 卒　業　論　文

題　　目

# 父親の育児における限界と可能性

2019 年入学

1LT19025M

九州大学　文学部人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

若松　奈央

提出年月　2023 年 1 月

# 要約

本論文は、日本における父親の育児に関する研究である。筆者は以前から、家庭内における家事分担の意識等に興味・関心があった。女性の社会進出が叫ばれ、1985 年の男女雇用機会均等法成立以来、女性の就業率は増え続け、今は働く女性の姿が当たり前になった。それに伴い家族の形も変化し、夫（父）と妻（母）が両方仕事をしている共働きの家庭が一般的になった。それまで男性が働いている間家庭内で家事・育児を行っていた女性が家庭の外に出て働き始めたことで、子育てのあり方も変化した。日本においては子育てをする男性を「イクメン」と呼び、イクメンを増やすためにさまざまな政策を展開してきたが、女性が社会進出する度合いにくらべ父親の育児参加は進んでない印象をうける。本研究は、日本における父親へ向けた育児支援の核である「イクメン」という概念に注目して、現在の父親の育児支援の限界を明らかにすることが目的である。加えて、今後の父親の育児の可能性を示すことをめざした。

まず第 2 章において、家庭から見た父親という存在を歴史に沿ってまとめた。近代以前の日本において、現代の育児とは異なるものの家の後継者となる息子の教育を主とした子育てを行っていた父親は、近代化とともに私的な領域とされた家庭から疎外され、一家の稼ぎ主として妻子を養う役割を担った。この時期に「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業意識が固定化したといえる。しかし少子高齢社会の到来と母親の育児不安の研究などから 1990 年頃に再び育児の担い手としての父親が注目されるようになり、以降父親の育児が促進されることとなった。

次に第 3 章において、石井（2013）と巽（2018）の研究をもとに 1990 年代から現在までの父親の育児に関する政策を整理した。子育て支援ははじめ少子化対策としての性格が強く、母親を主な対象としていたが、2007 年に夫婦の出生力そのものの低下が判明してから父親に向けた子育て参加の推進が加速することとなった。2010 年ごろからはイクメンという言葉がブームを巻き起こしたことにより育児をする父親がポジティブに捉えられるようになった。また、第 4 章以降で求められる父親像と実際の父親像を比較したり、メディアにおける父親の行動を分析したりする際の重要な視点として、父親研究について簡潔にまとめた。

第 4 章では「イクメン」を鍵概念として、イクメンとは何か、現在イクメンとして期待

されている父親とはどのような父親なのか、そしてそれは実際の父親たちが実現できる父親像なのかという最大の疑問を明らかにすべく分析を行った。比較的新しいイクメン研究としてまとめられている巽（2018）の視点や分析を用いつつ、今現在の父親の姿を捉えるために直近 10 か月分の新聞の関連記事から父親の育児の事例を分析した。そこから見えてきたのは、政府やメディアが賞賛し、その増加を図るイクメンという父親像は実際のほとんどの父親たちには実現が不可能であるという事実であった。イクメンとして期待される父親は一家の稼ぎ主としての役割を担ったまま育児にも積極的に参加する存在だが、現代日本の父親にとっては長時間労働や職場・地域領域におけるジェンダー規範、経済的理由など複数の要因によって実現が難しいのである。

第 5 章では、第 4 章でイクメンの実現が不可能だと明らかになったことを踏まえ、目指すべき父親像を捉え直しイクメンという概念を廃止すること、主に社会的地位と年齢の高い層を中心に職場領域におけるジェンダー規範を是正すること、男性が収入減を理由に育休取得を諦めないように男女賃金格差を是正することなどを、一部先行研究にて提案されていることに反論する形で提案した。

本研究では資料のみを用いて分析を行い、かつ資料として収集したメディア媒体も新聞のみだったため、実際の父親たちの現状把握に限界があり、ずれが生じている可能性がある。今後の課題としてより多様な視点から実際の父親の姿を捉え、父親の育児促進に新しい道を示すことができるような研究を行うことがあげられる。

# 目次

1.はじめに ..... 1
2.父親の育児に関する歴史 ..... 2
2.1.近代以前の父親 ..... 2
2.2.近代家族成立期の父親 ..... 3
2.3.「父親不在」の時代 ..... 4
2.4.父親の「再発見」 ..... 5
3.現代日本における父親の育児 ..... 6
3.1.父親の育児に関する政策 ..... 6
3.2.父親の育児に関する研究 ..... 10
4.「イクメン」は実現可能か？ ..... 11
4.1.「イクメン」とは ..... 11
4.2.「イクメン」の理想と現実 ..... 13
4.2.1.「イクメン」として期待される父親像 ..... 13
4.2.2.実際の父親たちのすがた ..... 15
4.3.「イクメン」をさまたげるもの ..... 18
4.3.1.長時間労働 ..... 19
4.3.2.職場や地域におけるジェンダー規範 ..... 20
4.3.2.（1）ハラスメントを経験した 3 人の男性 ..... 20
4.3.2.（2）「主語は母親」に直面した男性 ..... 22
4.3.2.（3）生きづらさを感じた専業主夫の男性 ..... 24
4.3.3 育休取得等による収入減 ..... 27
4.4.イクメンの実現はほとんど不可能である ..... 27
5.父親の育児の実現に向けて ..... 28
5.1.めざすべき父親像の捉え直し——「イクメン」の廃止 ..... 28
5.2.企業の管理職以上を中心とした意識改革 ..... 29
5.3. 男女賃金格差の是正 ..... 30

6.おわりに ..... 32
参考文献 ..... 33
謝辞 ..... 36